

競技注意事項

1 本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟規則により行う。

2 招集について

- ・下記の時間帯で実施する。

トラック競技	競技開始 40 分前～20 分前まで
フィールド競技	競技開始 60 分前～40 分前まで
混成競技	その日の第 1 種目のみ上記の時間に招集所で点呼を受け、その後の種目は現地にて招集を受けること

- ・招集所には、アスリートビブスを持参の上、競技者係のチェックを受けること。

- ・トラック競技は出発点、フィールド競技は選手待機場所付近にて競技開始の 10 分前に最終点呼を取るの遅れないように集合すること。

- ・棄権をする場合は、招集完了時刻までに棄権届（本部席総務に準備）を競技者係に提出すること。

3 リレーのオーダーは、規定の用紙（招集所に準備）にて、各ラウンドの招集完了時刻の 1 時間前までに招集所に提出すること。招集は上記の時間に受けること。

4 スパイクのピンは全天候走路型とし、長さは 9mm 以下とすること。但し、走高跳・やり投については 12mm 以下とする。

5 シューズは規定に沿ったものを使用すること。厚さ等について、審判長の指示で計測をすることがある。

6 出場者は胸、背部にアスリートビブスを付けて出場しなければならない。トラック競技に出場する選手は競技者係から配布された腰ナンバービブスを右腰やや後ろ側に付けること。但し、跳躍種目に出場する選手はその種目に限り、胸部又は背部のいずれかを除いてもよい。

7 不適切行為による競技者およびリレー・チームへの警告は累積され、2 度目の警告を受けた場合は除外（失格）となる。除外された場合、当該競技会のそれ以降の全ての種目やラウンドに出場できなくなる。

8 男子 800m の予選はセパレートレーンで実施するが、1～9 レーンに選手を入れた後は、9→2→7→4 の順に選手を入れて、一部 1 レーンに 2 名を配置する。

9 リレーに出場するチームは全員同系色ユニフォームで出場すること。（ユニフォームとは上・下をいう）

10 同成績について

(1)トラック競技のプラス進出者の最後の 1 枠に同成績（0.001 秒まで同じ）がいる場合、空きレーンがあれば全員が次ラウンドに進出するが、空きレーンがなければ、次ラウンドへの進出者は抽選により決定する。ただし 1500m 以上の種目での同記録者は、全員次のラウンドへ進むことができる。

(2)抽選は、本部の番組編成席で行う。抽選のアナウンス後 5 分経過しても該当競技者が番組編成席に来ない場合は総務員が代理で行う。

11 リレーおよび 800m 以下のトラック種目において、棄権等で予選または準決勝の出場者が減り、出場者が 9 人（チーム）以下になった場合は、予選（または準決勝）をなくし、同種目の決勝の時間に決勝レースを実施する。1500m 以上の種目においては、19 人以下になった場合に予選をなくし、同種目の決勝の時間に決勝レースを実施する。

12 フィールド種目においては、出場人数にかかわらず予選は行わない。

13 バーの上げ方

男子走高跳（1.55～） 1.60 1.65 1.70 1.75 1.80 1.83（以降 3 cm 刻）

女子走高跳（1.25～） 1.30 1.35 1.40 1.45 1.50 1.53（以降 3 cm 刻）

- ・練習は（ ）内の高さで行う。ただし、気象条件等により変更することがある。

- ・男女棒高跳、及び混成競技の走高跳の最初の高さについては、当日現地にて決定する。

- 14 走高跳のマットはトラック側に設置する。
- 15 棒高跳は天候等によって選手の安全性が確保できないと判断された場合に、総務並びに跳躍審判長の判断で実施日を変更することがある。
- 16 三段跳の踏切板は男子は 11m、女子は 9m に設定する。
- 17 練習については、審判員の指示に従い事故のないように十分注意すること。滑止めを使用する場合は、各自で用意をすること。
- 18 やり投の持参のやりについては、検査のうえ使用を認める。検査は本部前にて招集完了までに受けること。
- 19 フィールド種目の競技者がコーチ等から録画機器を受け取ってビデオを見ることはできるが、通信や撮影等、動作確認以外には使用することができない。また、録画機器の受け渡しは、コーン等で指定されたエリア（安全且つ競技運営に支障のない場所）で、ひもやかご等（各チームで準備）を使用して行うことができるが、機器が破損した場合、主催者は一切の責任を負わない。なお、投げ渡しや身を乗り出している危険な状態での受け渡しは認めない。
- 20 雷が鳴った場合はすぐさま競技を中断する。その場合は、兆候（雷鳴や稲光）がなくなって 30 分後を目安に競技を再開（アナウンスで指示）する。なお、中断時間によっては以降の種目の実施方法を変更（タイムレースに変更やフィールド種目の試技回数の変更等）することもある。
- 21 ウォーミングアップについては、競技場前運動場で行うこと。メイン競技場での練習は競技開始の 30 分前までとする。なお、競技中もバックストレートでの練習を一部認めるが、周回競技実施中およびバックスタンド側跳躍ピットで競技中は、バックストレートを使用しての練習はできない。なお、安全に十分留意して行うこと。
- 22 高体連規定により、各学校引率教員のない学校の出場は認めない。
- 23 選手変更(補欠との入れ替え)については、本部総務席で行う。
- 24 競歩・混成は 8 位まで、走高跳・棒高跳は 11 位までの 11 人、その他の種目は 11 位までの入賞者が県大会に出場できる。

会場：博多の森陸上競技場 期日：5 月 23 日(金)～25 日(日)

- 25 トラック種目の県大会出場権の決定方法について
 - (1)リレーおよび 800m 以下のトラック種目は、前ラウンドの結果、着順およびプラスで決勝(A 決勝)に出場し、順位が確定した選手(チーム)が県大会出場権を得る。決勝を欠場したり失格となった選手(チーム)は県大会出場権を得ることはできない。残りの出場権は、出場権決定戦(B 決勝)を実施し 3 位までの選手(チーム)が県大会出場権を得る。
 - (2)同成績で A 決勝を 9 名で実施した場合、B 決勝で 2 位までの選手が県大会出場権を得る。また、救済で A 決勝を 9 名以上で実施した場合、A 決勝の 9 位以降の選手と B 決勝をタイムレースとして扱い、3 位までの選手が県大会出場権を得る。
 - (3)B 決勝は、決勝の一つ前のラウンドにおいて、決勝に進出できなかった選手の中からタイム順でプラス 8 人を選出する。
 - (4)以上の方法で出場枠を満たさなかった場合に、補充する措置をとらない。
 - (5)1500m 以上のトラック種目は、決勝で 11 位までの選手が県大会出場権を得る。なお、男子 5000m はタイムレース決勝で実施するため、総合順位の 11 位までの選手が県大会出場権を得る。
- 26 フィールド種目の県大会出場権の決定方法について
 - (1)高さを競う種目以外は、11 位までの選手が出場権を得る。
 - (2)走高跳、棒高跳については 11 位までの 11 人とし、最後の枠に同成績がいる場合は、ジャンプオフ形式で決定戦を行う。